

Title	市場導入期における競争戦略 - ワークステーション市場 -
Sub Title	
Author	野村昌志(Nomura, Masashi) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第710号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0710

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

市場導入期における競争戦略 — ワークステーション市場 —

本論文の目的は、第1に不確実な要素が多い市場導入期において、参入企業が勝ち残りをかけて選択しなければならない重要な決定事項を導き出すこと、第2に優れた選択を行うための評価基準を発見すること、そして第3に上記の決定事項と評価基準を1989年時点では市場導入段階にあるとみなせるエンジニアリング・ワークステーション(EWS)市場に適用し、現状及び将来の状況について推論を試みることにある。

研究の方法としては、W. J. アバナシーによる技術競争段階の提示と、M. E. ポーターが提示した業界構造の分析の視点について、その結論の一部を補足する5つの仮説を立案し、それらが既に市場導入段階を通り過ぎた幾つかの市場においてあてはまるか否かを確かめることにより、結論を導き出す方法をとった。従来の市場導入期の研究は、導入期終了後に当該市場の過去を振り返る分析がほとんどであったが、本論文では、5つの市場の分析から得た結論を、1989年現在導入期にあるとみなせるEWS市場に適用し、現状及び将来の状況の推論を試みている点に特徴がある。

研究の結果、市場導入期において重要な決定事項は「技術の取得と供与の方法」の選定と「差別化のポイント」の選定であり、それぞれの選択を行う際の評価基準は、「技術競争の段階」の判断と「製品特性」の情報であることが導出された(これに付随して、「技術の取得と供与の方法」のモデル図と、「製品特性と市場導入期のKey Factor of Success の関係」のモデル図を描くことができた)。また、現時点のEWS市場は、アバナシーのいう第1段階、第2段階いずれとも異なる段階(1. 5段階)に位置し、今後数年はグループ間の差別化のための技術提携が行われること、並びに勝ち残るための差別化のポイントが5点あることが判明した。